

令和4年8月9日

天理市議会議長 大橋 基之 様

文教厚生委員会
委員長 榎堀 秀樹

文教厚生委員会視察報告書

視察日程 令和4年7月20日(水)～7月21日(木)

視察先及び調査事項 石川県小松市 7月20日(水)
13時00分～14時30分
調査事項「地域防災力向上の取り組みについて」

石川県かほく市 7月21日(木)
9時00分～10時30分
調査事項「こども園でのおむつの手ぶら登園について」

視察議員 委員長 榎堀 秀樹
副委員長 西崎 圭介
委員 内田 智之
委員 藤本 さゆり

欠席委員 委員 大橋 基之
委員 荻原 文明

随 行 議会事務局 青木 一朗

1. 石川県小松市

調査事項「地域防災力向上の取り組みについて」

視察先対応者

小松市議会議長

小松市議会事務局長

小松市危機管理課長

①目的

地域社会が防災に果たす役割は極めて大きなものがあり、本市でも高齢化の進展や中山間部の過疎化の進行などを背景に、今後ますます地域社会における共助の果たす役割が大きくなることが予想される。小松市では地域防災力の向上について、自主防災組織の育成など先進的な取り組みを実施しており、その取り組みについて研修することで、本市の地域防災力の向上に繋げる。

②施策概要

小松市では自主防災組織強化等による自助・共助・近助の推進や、消防ドローンやデジタル行政無線等の先進防災技術の導入等により、防災・減災に取り組んでいる。平成 22 年には、「市内の自主防災組織相互の連絡を取り合える場を設ける」・「防災情報の共有・交換により技術・技能の研鑽を図る」・「地域防災力の強化を図る」ことを目的に、小松市自主防災組織連絡会が発足され、市内の自主防災組織（245 組織）の代表者や有識者のもと、合同訓練の開催、自主防災大会の開催、広報誌の発行等を行っている。

それ以外にも、自主防災組織の育成として、自主防災組織評価制度を行い、「人材育成」・「組織の充実度」・「防災取組み」・「訓練関係」についての 35 項目を数値化することで 5 段階評価を行い、優秀な組織は毎年自主防災大会で表彰を行うことで、自主防災組織の活性化に繋げている。

また、初動期対応・避難誘導・情報伝達など災害毎に必要な訓練内容を取りまとめ、さまざまな災害に応じた訓練に活用する内容を記した 35 ページからなる「防災訓練ステップアップマニュアル」を作成し自主防災組織に配付することにより、自主防災組織の更なるレベルアップに向けて、訓練内容の充実及び訓練実施率の向上を図っている。

その他、自主防災組織の防災訓練実施に対する補助金の交付、防災士（アドバイザー）の派遣、地域防災リーダー・しみん救護員の育成、避難行動要支援者に対する避難誘導を行うための災害時要支

援者マップの作成等を行い、地域防災力の向上に取り組んでいる。

③考察と今後の課題

全国的に自主防災組織の抱える課題として、団体数は増えているのに、その後の国や自治体のフォローがおろそかになり、高齢化の進展とともに組織が形骸化し、活動率が衰えていることが挙げられる。このような状況の中、小松市では自主防災組織の結成後の活動についての支援を充実させ、具体的な活動を後押しするための実効性のある施策を行っている。

本市では、自主防災組織結成時の自治会向けの説明会の実施や、自主防災組織が実施する防災訓練への助言や職員の派遣、結成初年度と次年度の補助金の交付等を行ってはいるが、被災時に自主防災組織が効果的な活動ができるよう更なる施策の充実が必要ではないかと考える。

2. 石川県かほく市

調査事項「こども園でのおむつの手ぶら登園について」

視察先対応者

かほく市議会議長

かほく市議会事務局長・係長

かほく市子育て支援課長・課長補佐

①目的

本市では昨年9月1日から保育所・こども園からの保護者のおむつの持ち帰りを廃止し、保育所等で処分している。かほく市では「こども園でのおむつの手ぶら登園」の他、「保育の質の向上」のための先進的な事業を実施しており、それらの事業について研修することで、本市の保育所等での更なる保護者の負担軽減に繋げる。

②施策概要

かほく市では平成16年の市制施行以降、平成20年の出生数が最小の241人となったことを契機に、若者や若年世帯にターゲットを絞った定住促進事業や、経済的支援や保育の質の向上による子育て支援事業に積極的に取り組んでいる。その結果、子育て世帯の移住により人口は平成26年から増加を続けている。

この度、視察研修を行った「こども園でのおむつ手ぶら登園」に

については、移住した子育て世帯の満足度を上げ、長く定住してもらうための「保育の質の向上」の施策の一つである。

かほく市が行う「保育の質の向上」の具体的な施策としては、こども園での出欠席等の連絡がオンラインでできる業務支援システム「C o DMON (コドモン)」の導入や、カバーを持ち帰るだけである午睡用ベッド(コットベッド)の全ての公立保育施設への導入が挙げられる。「こども園でのおむつ手ぶら登園」も含め、保育士や保護者の負担を軽減することを通じて、「保育の質の向上」に繋がっている。

「こども園でのおむつ手ぶら登園」は、大阪のベンチャー企業「BABY JOB」が提供するサービスで、利用者(保護者)とBABY JOBが契約を結び、BABY JOBがこども園におむつを納入し、利用者が定額でこども園でのおむつを使い放題にするサブスクリプションサービスである。かほく市では、「C o DMON (コドモン)」の導入後に導入したが、「C o DMON (コドモン)」とシステム連携していることや、利用者(保護者)とBABY JOBが直接契約すること、特に市の費用負担がないこと等が導入の要因となった。導入には「保育現場の負担の増大」・「保護者に浸透するか」等の課題もあったが、BABY JOBが行うオンライン説明会や、「C o DMON (コドモン)」のシステムと連携していること等により保育現場での負担や混乱は思いのほか少なく、利用者は全体の20パーセントにとどまるものの、おむつの取り扱いについて保護者に選択の機会を提供することで、保護者の保育への満足向上に繋がっている。

③ 考察と今後の課題

本サービスにより、利用者(保護者)にサービス選択の機会を提供できること、また、サービスを受ける利用者は、おむつ持参の手間が省け助かるなど、効果は大きいと考える。

本市で「こども園でのおむつ手ぶら登園」を導入するとなると、現場の保育士の理解、サービスの利用園児とそれ以外の園児を分けて運用するための保育士の業務量の増加、こども園でのおむつの保管場所、現在導入している保育業務支援システムとの連携等の課題が挙げられるが、現場への丁寧な説明と、各園に応じたこども未来課の支援が必要であり、今後も研究が必要と考える。